

Hermann Gottschewski

東京大学 平成 24 年度冬学期 総合科目「比較文化論」 『ドイツ語文化圏と歌』

月曜 2 限 アドミニ棟学際交流ホール

第 8 回 平成 24 年 12 月 10 日

ドイツの 19 世紀の民謡文化の歴史的な出版物

Volkslied: 19 世紀後半以来、日本語の「民謡」にあたる。それ以前は *Volkstümliches Lied*, *Nationalgesang*, *Patriotisches Lied* などの意味でも使われた。

Volksgesang, Nationalgesang: 「民俗の歌唱」という意味で、19 世紀以前においては、多くの場合民謡の同義語として用いられた。複数の民俗を比較する時に使われることが多い。

Patriotisches Lied: 愛国歌。19 世紀前半において、民謡と混同されることが多かった。

Volkstümliches Lied: 民謡の役割を果たすために、あるいは民謡の様式で創作された歌。19 世紀前半まで民謡と混同されることが多かった。

Das Volk: 民・民族・民俗・庶民・国民・民衆・大衆

『民謡』の性格

(以下は A. Henkel: „Ueber Volksgesang, besonders den deutschen“ (民の歌唱について、特にドイツの), in: *Berliner Allgemeine Musikalische Zeitung* (ベルリン総合音楽新聞), 第 2 部、1828 年 10 月 21 日、413~416 頁より略訳)

- ・歌詞の内容がだれでも分かる様なものである (民は ^{いとけな} 稚い性格を持つ)
 - ・例えば実際の生活に関係ある話、一つの見識を比喩的に表す物語など
 - ・内容は一つの要点 (*Hauptgedanke*) に集中し、そこから離れない
 - ・比喩は自然や日常生活につながる
- ・韻律、詩形式は単純なものでなければならない
 - ・全ての *Strophe* が同じ韻律形式に従い、全ての切れ目等が一致する
 - ・原則として前半と後半に分かれる対称的な形式を持つ
 - ・脚韻を踏む (したがって覚え易い)
- ・民謡の音楽的な性格をもっともよく理解している作曲家は Hiller, Schulz, Reichardt[t] である (Johann Adam Hiller, 1728–1804; Johann Abraham Peter Schulz, 1747–1800; Johann Friedrich Reichardt, 1752–1814)。彼らの研究によれば、民謡が「一般的な効果を持つために」 (= 「創作された曲が民衆に普及するため」という意味だろう) 次の条件を満たさなければならない。
 - ・音の進行が単純で、音域が小さいこと
 - ・意図的に作られたように聞こえる複雑な和声を使用しないこと
 - ・斉唱 (ユニゾン)、または無伴奏で歌われても「なにも失わない」こと (その場合には和声の根本的な進行が旋律から自明であること)

民謡の創作者が「芸術を知らない」というのではなく、「芸術を見せない」のが理想である。そういう段階に到達すれば作曲家は「純粹で、^{かくい} 隔意のない美しい自然の人間」に等しくなる。こういう人間のみが民謡を「自分の中から歌うことができる」。

Johann Adam Hiller, 1728–1804: Singspiel (オペラ) „Die Jagd“ (『狩』、1770年) より

Hiller の作品は Volkslied (民謡) というより Volkstümliches Lied (民謡風の歌曲) として評価されている

(右の譜例参照)

Johann Abraham Peter Schulz, 1747–1800: *Gesänge im Volkston* (民俗風の歌, 1778); *Lieder im Volkston* (1782, 1785, 1790) 等という創作民謡集で知られている

彼のもっとも有名な作品は『Der Mond ist aufgegangen』(Lieder im Volkston, 1790より)

(下の譜例参照)

Johann Friedrich Reichardt, 1752–1814: ヘルダーの民謡やゲーテの詩等の作曲で有名。次の2頁の歌は *Lieder der Liebe und der Einsamkeit* (愛と孤独の歌) 第一集 (1798年, Seufzer) と第二集 (1804年, Sehnsucht) より。

Ex. 9. Die Jagd.

J. A. HILLER.

Commodetto.

Als ich auf meine
Da kam aus dem Ge-

Blei - che ein Stück - chen garn be - goss Das
sträu - che ein Mädchen a - them - los.

sprach, ach habter - bar - men, steht meinem Va - ter bei! Dort

schlag ein Fall dem Armen das linke Bein ent - zwei!

Sehe
grundfüßt.

Der Mond ist auf - ge - gangen, die goldnen Sternlein prangen am Himmel hell und klar; der Wald steht schwarz und
schweigt, und aus den Wiesen steigt der weiße Nebel wunderbar.

民謡から芸術歌曲へ：「Heidenröslein」の場合

Heidenröslein は、遅くとも 16 世紀から様々なヴァージョンで伝わってきた民謡を、若きゲーテが詩として改作したもの。ヘルダーの「民謡」(第二集、1779) などにも非常に似た形で「口伝民謡」として載っているが、ヘルダーとゲーテの役割分担について様々な説がある。

この詩がゲーテの作品として非常にポピュラーになり、多くの作曲家に編曲されている。シューベルト(Franz Schubert, 1797–1828)とヴェルナー(Heinrich Werner, 1800–1833)の編曲が有名だが、後者の方がドイツでよりポピュラーになった。

<http://www.youtube.com/watch?v=eYAVey8TbiY> (Schubert の編曲)

http://www.youtube.com/watch?v=q_qEckWleII (Werner の編曲)